

# 令和2年度荒牧町自治会総会(書面総会)結果報告

先日実施しました書面総会の結果について、ご報告させていただきます。この結果については、3月13日(土)に開催した地区代表会議において確認しました。

1. 書面総会の成立確認 自治会会員総数 1780名 回答数 1160名(うち白紙4名)

★議決権行使数が過半数を超えましたので、総会の成立を確認しました。

## 2. 採決の状況

議案1: 令和2年度事業報告	賛成1154名	反対2名	議案2: 令和2年度決算書	賛成1154名	反対2名
議案3: 会計監査報告	賛成1154名	反対2名	議案4: 令和3年度役員承認	賛成1155名	反対1名
議案5: 令和3年度事業案	賛成1152名	反対4名	議案6: 令和3年度予算案	賛成1153名	反対3名

★議案1～6まで、賛成が過半数を超えましたので、全議案が承認されました。

## 3. 主なご意見(要旨)

- 意見1: 「新型コロナ感染防止対策が重要なので、議論することが大切だと思います」(同様な意見が数件)  
回答『令和2年度に実施してきた対策に加え、さらに感染対策を協議し、状況に合わせて実施していきます』
- 意見2: 「多目的ホール外壁塗装工事は納得できない」  
回答『同ホールは築23年近く経過し、老朽化が目立つため予算計上しました』

◇報告は以上です。承認されました議案に沿って自治会運営を実施したいと思います。ご協力ありがとうございました。

# 特集

# 『町かど探検集』完成

荒牧町だより  
書 萩原清子

第218号  
荒牧町自治会  
広報委員会

平成16年から「荒牧町だより」に掲載されてきました『町かど探検』が50号に達したことをうけ、このたび『町かど探検集』として冊子にまとめました。

この町かど探検は、町内在住の赤松昭光さんが約15年間にわたって荒牧町にかかわる歴史や文化について探検し記録してきたものです。荒牧町の歴史や文化を知るうえで、とても貴重な資料になると思います。

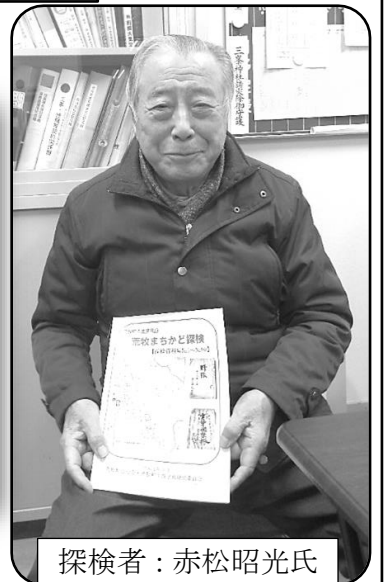
冊子の配布は関係者のみですが、町の歴史文化資料として自治会事務所にも保管してありますのでご利用いただき、住みよいまちづくり活動に活かしていただければと願っています。

ここでは、冊子の中から、「自治会長あいさつ」・「赤松さんのことば」・「町かど探検No.27」を掲載し、冊子の紹介とさせていただきます。

なお、探検内容につきましては荒牧町自治会ホームページに掲載されていますのでそちらをご覧ください。



探検集



探検者：赤松昭光氏

## 「荒牧まちかど探検」の発刊によせて

探検者 赤松 昭光

私が荒牧町に住んでしばらく後の事、公民館で町内の会合があった。その折、町の発展に多大な貢献をされ、今は故人となられた高橋茂さんとたまたま隣り合わせになった。

私が高橋さんに「この町は歴史があるのだから、古い記録もかなり残っているのでしょうか」と尋ねたところ、「実は明治時代の中頃、大火に見舞われ、殆どの古文書が焼失してしまったのです」との答えであった。

私が続けて「それでは誰かが今からでも町内の古い事項や言い伝えをまとめられる方はいないのでしょうか」と再び尋ねると、「丁度良かった、私もそれについてずっと前から考えていたのですよ。どうだろう赤松さんが一つ骨を折ってもらえませんか、その原稿を町の広報紙に載せたいのだが」と、半ば強引に押し付けられてしまった。

私も行きがかり上、引き受けざるを得なくなり、それ以降私なりに興味を引いた事項について、特に一貫性はなかったが、町内の先人達や役を果たしてこられた方々の聞き役となって、広報誌に掲載してきた。また、掲載にあたっては春山義夫さんの助力が大きかった。

その原稿が丁度50号となったので、今までのものを一冊にまとめた訳である。

## あいさつ

令和2年度自治会長 大野 啓一

私は、昭和38年(当時中学2年)の時に、吾妻郡嬭恋村の石津鉦山から荒牧町に引っ越してきました。当時は辺り一面松林で、家は数軒しかなく、寂しい所でした。あれから58年、荒牧町は区画整理等で町全体が様変わりし、住みよい荒牧町に発展してきました。

今年一月、赤松先生のお書きになった「荒牧まちかど探検」を拝読し、「あらまきの名称由来」、「荒牧町の変遷」等が手に取るようにわかり、衝撃を受け釘付けになりました。

また、ただ漠然とお参りしてきた「荒牧神社の数種の碑に書かれた由来」が分かり易く説明され、その他、ちんちん電車が通っていた事、養蚕が盛んだった当時の名残、今も残る荒牧町の古木、お地蔵様等々、大変勉強になりました。

「荒牧町まちかど探検 No1～50」歴史を遡って資料を集め、見聞し、足を運んで調べて下さった「赤松先生」に大変感謝申し上げます。素晴らしい「荒牧町まちかど探検」皆様も是非ご一読ください。

町かど探検  
No. 27

## 全国各地にある「あらまき」

内容紹介を兼ねて、探検集の中から「荒牧の地名」について紹介した27号を掲載します。

わが国は地名の多い国としても知られている。その土地の名は、山川草木による地形あるいはその場所の形状、あるいは歴史的な由来など様々である。

さて、これら全国の地名の成り立ちを調べてみると、その場所の多くが最初から現在使われている地名ではなかった。一つの例として以前からの発音が現在の地名となっているものも決して少なくはない。例えば、「かっち」、「かわち」、「こうち」と呼ばれていた土地が、今では「河内」と表記されている。現在の「あらまき」も古い文献によると、その全てが確証が持てるとは限らないが、かつては新牧、荒蒔、荒巻という記述も存在していた。

ところで、我が「荒牧町」の「あらまき」について調べてみると、昭和46年に元群馬大学歴史学研究室の尾崎喜左雄教授が次のように書いている。要約すると・・・「あらまき」は現在「荒牧」の文字をあてている。一見、荒廃した牧場を連想するが、これは「新牧」の意であろう。この地は西隣の川原村(町)との間に、元禄年間の古地図によると利根川が流れていた。

また、「延喜式」という書物によると、上野国から馬を献上した官牧の一つに「有馬島敷」があった。有馬は以前の古巻村大字有馬である。「古巻」は「古牧」であり、「ふるまき」に対して「あらまき」があったことは当然考えられる。有馬の地の東方に「新

牧」が設けられ「あらまき」と呼ばれ「荒牧」の字があてられたと考えられる。さて、馬を献上した官営の牧場は特に上野国だけではなく、全国に「古牧」や「荒牧」という地名があるはずであり、これは上述した、従来の古い牧場に対して新しい牧場にあたる地名が付けられているのであろう。

平成17年(2005年)に平凡社刊行による、「日本歴史地名体系」という辞典により「荒牧村」という地名のある場所を調べると、群馬・新潟・滋賀・兵庫・熊本・大分のそれぞれの県にあることが分かった。しかし、これらは当然、平成17年当時の調査に基づくものであるため、その後の市町村の合併等により変遷をやっていったことは十分考えられる。そして「あらまき」と呼ばれる、新牧、荒巻、新巻、新蒔、荒蒔という地名になると、さらに多くの県や地区から見い出すことができる。我が荒牧町もかつては荒蒔・荒巻と表記されていたような記述も存在している。

次に、上記6県の県毎の辞典や各県の担当者からの調査により、「あらまき」という名称の由来を調べて見た。その結果、これらの地名の由来のほとんどが、古くは古代あるいはそれ以降の馬の産地あるいは牧場(まきば)に関係したものであった。「荒牧」以外で表記されている地区についても全部は調査できなかったが、恐らく馬・牧に関係した地名と考えて良いのではないかと。(赤松)

## コロナに負けずクリスマス会

12月12日、子ども会育成会のクリスマス会を開催しました。コロナ渦ということもあり、例年とは違ったクリスマス会となりました。

出し物等は行えませんでした。子どもたちに少しでも楽しんでもらえるように、3密とならないように感染対策をして行いました。

子どもたちからは「サンタさんがいる!」「プレゼントなかな?」などの楽しそうな声や笑顔もみることができ、楽しんでもらうことができました。



ありがとう

## ここ、どこ? (18)

この欄では、町内の気になる場所の写真を紹介していきます。さて、どこかわかりますか?



荒牧団地にある、おれあいセンターです。団地の人たちの様々な活動に活用され、おれあいの中心場所となっています。

## 編集後記

今年度は、コロナ感染のため、自治会活動も経験したことの無い対応を迫られ大変だったと思います。その影響で「町だより」も発行回数が減り、町の活動を十分に紹介できず申し訳ないと思っています。そんな中、年度末になって『荒牧町かど探検集・完成』という朗報をお伝えでき、明るい雰囲気なかで年度を閉じることができてホッとしています。今年度もお読み頂きありがとうございました。(唐澤)

